

“わたしのまち”

杉並区

「サブカル」だけのまちじゃない、高円寺

「個性的な店、風情ある店、歩いて楽しいまち」

古着屋や古書店、ライブハウス、個性的な雑貨店や飲食店などが多く、若者に人気のまち高円寺。14の商店街は高円寺のまちにぎわいをもたらします。また、1年を通して開催されるさまざまなイベントには区内外から多くの人が訪れ、まちを盛り上げます。活気あふれる商店街が生み出す高円寺のまちの魅力をご紹介します。



毎年秋に開催される「高円寺フェス」では、ゆるキャラまつりが名物イベントのひとつ。昨年は総勢40体のキャラクターたちが登場し、集まった観客に地域や企業のPRを行った

●高円寺 駅からお散歩マップ

昔ながらの人情味あふれる店の多い商店街、飲食店が集まる商店街、若者を引きつける人気の店がそろった商店街…高円寺の商店街はいろいろな顔をもつ。



若者でにぎわう商店街のまち

高円寺は、古着屋や古書店、ライブハウス、個性的な雑貨店や飲食店などの店が多く、「サブカル（サブカルチャー）のまち」として知られています。

駅前を中心に活気あふれる商店街が連なり、多くの人でにぎわいます。商店街には若者に人気の新しい店も多くありますが、昔ながらの人情味あふれる商店や古くから続く和菓子屋や喫茶店など地元の人に愛されてきた店も多く残っています。

高円寺の地名はこの地にある宿鳳山（しゅうほうざん）高円寺という寺に由来します。もともとこの辺りは「小沢村」と呼ばれていましたが、江戸幕府の三代将軍徳川家光が、鷹狩りのあとに休憩をとるため

に、しばしばこの寺に立ち寄ったことから寺の名前が広く知られるようになり、いつしか「高円寺」が地名となりましたといわれています。

かつて豊かな農村地帯だったこの地域は、関東大震災で、都心からの移住者が増えたことで、小規模な商店が立ち並ぶようになりました。そして戦後次々と商店街が整備され、現在のにぎやかで活気あふれる商店街が集まるまちなりになりました。

魅力あふれる個性的な商店街

高円寺には14の商店街があります。小説やドラマの舞台として有名な高円寺純情商店街は、高円寺駅北口に戦



四大まつり

高円寺 びっくり大道芸

来場者数：
約20万人（平成28年）

春



東京高円寺 阿波おどり

来場者数：
約88万人（平成28年）

夏



前から栄える歴史ある商店街です。ドラッグストアや日用雑貨店など生活に欠かすことができないお店から、昔ながらの人情味残る生鮮食品店や菓子店など約200店が集まります。もともとは「高円寺銀座商店会」という名称でしたが、ねじめ正一さんの小説「高円寺純情商店街」が直木賞を受賞したのを機に改名し、一躍知られるようになりました。

一方、東京の夏の風物詩である阿波おどりの発祥の地は、高円寺駅南口から伸びる高円寺パル商店街です。阿波

おどり用品の販売店や雑貨店、大手チェーン店などが並ぶ商店街は、大きなアーケードがかかっているのに雨に濡れることなく買い物を楽しめます。この商店街では、平成15年に商店街の指針となる「パル憲章」を独自に制定するなど、訪れる人に安全で楽しく買い物をしてもらえるよう取り組んでいます。

パル商店街を抜けてさらに南へ向かい青梅街道方面へとつながっているのが、個性的なカフェや古着屋などが多く、若者に人気のロック商店街です。昭和37年に3商店会が統一してできたもので、現在は約150店舗が軒を連ねています。比較的小さ

高円寺のまちを盛り上げる

活気あふれる個性的な商店街



大場通り商和会

早稲田通り沿いに広がる杉並区と中野区にまたがる商店街。昔ながらの蕎麦屋や理容店など庶民的なお店や、アメリカン雑貨などの個性的なお店などさまざま。

高円寺あづま通り商店会

昭和27年からある商店街。飲食店から古書店、ファッションのお店まで店舗はさまざまあり、高円寺通には人気の高い商店街。独自のイベントも多く開催している。

高円寺中通商栄会

老舗店舗から新しいお店まで、さまざまな業種のお店が集まる商店街。とくに飲食店の数は高円寺一で、イタリアン・インド料理など各国の味が楽しめる。

高円寺駅西商店会

高円寺駅高架下を阿佐ヶ谷方面に伸びる商店街で、飲食店が多く集まっている。夕方ともなると「乾杯！」の声があちこちで聞かれ、その独特の風景は観光客にも人気がある。

高円寺南商店会

古着屋が多く集まっており、ファッション業界の人が撮影で訪れることもしばしば。駅の近くには、境内に日本で唯一の気象神社がある氷川神社がある。

ロック商店街（新高円寺通商店街）

正式名称は「新高円寺通商店街」。個性的なセレクトショップ、アクセサリーや雑貨店など若者に人気の店が多く、休日の午後には多くの人出でにぎわいを見せる。

ニコニコロード（東高円寺駅通り商店会）

オレンジ色のイメージカラー・ニコニコマークの街灯が目印の商店街。もともとは中野方面から妙法寺へお参りする人たちの参道だった。昔ながらの情緒ある個人商店が多い。

高円寺庚申通り商店街

地元住民に信仰されている庚申塚が残る歴史ある商店街。おやつのお店も多いので食べ歩きしながらの散策もおすすめ。小道を入れば高円寺北公園がある。

高円寺北中通り商栄会

有名リサイクルショップをはじめ、古本酒場やおしゃれカフェなど、若者に人気の店も多い。近くには馬橋公園があり、ゆったりとした時間を過ごすことができる。

高円寺純情商店街（高円寺銀座商店会）

高円寺駅北口正面にある、高円寺のまちのシンボルともなっている温かみのある赤い色のアーチが目印。見上げると、杉並区の公式アニメキャラクター“なみすけ”の姿も。

高円寺パル商店街

約250mもあるアーケードには、七色の光を発する「ジャンクションドーム」があり、楽しんで買い物できる仕掛けがあり、多くの人が行き交う。「東京高円寺阿波おどり」の発祥の地。

エトアール通り商店会

かつてあった映画館「エトアール劇場」が開館したことをきっかけにつくられた。もともとは飲食店が多かったが、最近は古着屋や雑貨店、レコード店なども軒を連ねる。

馬橋商興会

東京メトロ丸の内線新高円寺駅から青梅街道の西側に広がる商店街。高円寺側にはロック商店街が伸びている。都心へのアクセスがよく、飲食店・病院などが並ぶ。

東高円寺銀座商店会

東京メトロ丸の内線東高円寺駅の駅前商店街で、青梅街道に面しており、遊興施設や飲食店が並んでいる。近くには蚕糸の森公園が広がり、住民の憩いの場となっている。

な店が多いのも特徴的で、それぞれの店に根強いファンも多い商店街です。その他にも高円寺にはたくさんさんの商店街があり、それぞれの商店街が年間を通じて各種セールやアートイベント、季節ごとの祭りなどを開催しています。地元密着のイベントも多く、商店街によつて地域に活気が生まれています。

熱気あふれる高円寺のイベント

高円寺では、まちをあげてのイベント

トが多いのも特徴のひとつです。その中でも春の「高円寺びっくり大道芸」、夏の「東京高円寺阿波おどり」、秋の「高円寺フェス」、冬の「高円寺演芸まつり」は、高円寺四大まつりともいわれ、区内外から多くの人が訪れる注目のイベントです。

春のビッグイベントである高円寺びっくり大道芸は、平成21年から開催しているイベントです。今年は4月30日・5月1日の2日間にわたり開催さ

にぎやかで 活気あふれる 高円寺

秋 高円寺フェス

来場者数：約18万人（平成27年）



冬 高円寺 演芸まつり

来場者数：約4500人（平成27年）



れました。高円寺の11の商店街や駅前広場、公園などを舞台に、国内外から集まったパフォーマーが磨かれた技でジャグリング、パントマイム、ストリートミュージックに空中ブランコなど、盛りだくさんのパフォーマンスをまわりのいたるところで繰り広げ、披露しました。その名のとおり「びっくり」な技の数々に、集まった人たちは魅了されていきました。

一方、毎年8月下旬に開催され東京の夏の風物詩となっている東京高円寺阿波おどりは、期間中、1万人の踊り手と100万人近い観客の歓声で夏の高円寺を熱気で包みます。今年で60回目を迎えたこのイベントは、昭和32年、高南商盛会（現在の高円寺パル商店街）で、隣接する商店街から周辺町会に拡大し、いまや都内有数の大イベントとなりました。発祥の地であるパル商店街には、阿波おどり用品を取り扱う店が多数あります。

高円寺のまち全体が会場になる秋のイベントが、高円寺フェスです。スタンプラリーやワークショップ、高円寺ゆかりの著名人によるトークショー、ストリートライブ、古着ファッションショー、駅前プロレスなど何でもありのいわば高円寺の文化祭で、2日間にわたり18万人を超える人が訪れます。平成19年に商店街の若手経営者が「小さくても手作りでもいい、気軽に楽しめるイベントをはじめよう」と呼びかけたことから始まり、

手と100万人近い観客の歓声で夏の高円寺を熱気で包みます。今年で60回目を迎えたこのイベントは、昭和32年、高南商盛会（現在の高円寺パル商店街）で、隣接する商店街から周辺町会に拡大し、いまや都内有数の大イベントとなりました。発祥の地であるパル商店街には、阿波おどり用品を取り扱う店が多数あります。

まだまだある 魅力いっぱい！ 高円寺



地域に根差した芸術文化の拠点 座・高円寺

平成21年に開設された、舞台芸術の創造と発信を行う複合施設。独特のドーム型の外観と、館内に差し込む、丸窓とライティングによる木漏れ日のようなやわらかな円形の光が特徴的で、建物を見るために施設を訪れる人も多い。

歩行者を楽しませるアート作品 トランスボックス デザインラッピング

今年3月、高円寺駅周辺に配置されている配電用上機器（電線類を地中化するための装置／通称：トランスボックス）に高円寺を象徴するデザインのラッピングが完成。今までは落書きされていたトランスボックスが、まち行く人を楽しませるアート作品に変身した。



高円寺発祥のご当地カレー 高円寺グレービービーフカレー

高円寺商店街連合会公式キャラクターであるサイケ・デリーさんのパッケージが目立つオリジナルカレー。牛肉の肉汁から作られたグレービーソースを使ったうまみたっぷりのカレーが特徴。高円寺のコンビニエンスストアや区役所内コミユカるショップなどで購入できる。

広報課から

グレービーソースが入っていることでコクがあるカレーで、子どもから大人まで楽しめる一品です。高円寺のお土産にぜひ！



今では約200店舗が参加し、子どもから大人まで誰もが楽しめるビッグイベントに成長しました。今年10月29日・30日に開催され、ユニークな企画の数々が秋の高円寺を盛り上げました。冬の寒さを暖かい笑いで吹き飛ばす高円寺演芸まつりは、毎年2月に行われます。高円寺駅周辺の飲食店などでは、古くから若手落語家が集まり寄席を開き、人々の交流の場となっていました。こうした地域の伝統的な魅力に着目した町会や商店街の人々が「春の大道芸、夏の阿波おどり、秋のフェスに続く地域ぐるみの冬のイベントを作

りたい」と企画し、平成23年から開催されるようになりました。約10日間にわたり、銭湯、居酒屋、蕎麦屋、寺社などまちのあらゆる場所が寄席に変身し、高円寺に集結した100名以上の芸人が落語や漫才を披露、まちに暖かな笑いがあふれます。多数の来街者を迎え、まちぐるみで盛り上がるイベントの多い高円寺ですが、こうしたイベントの数々を支えているのは地元のお店街です。個性的な商店街が生み出すにぎやかで活気あふれる雰囲気は、高円寺を訪れる人々をこ